



く「云々」と、淡等(旅人)が夢で見た琴の精である乙女との会話から始まり、以下の歌二首が添えられた。

「いかにあらむ 日の時にかも声知らむ人の膝の上 我が枕かむ」(いつの日、どんな時になつたら、私のこの音色を聞き分けにくださる立派な方の膝の上に、私は枕することができるのでしょうか)

「言問はぬ 木にはありとも うるはしき 君が手馴れの 琴にしあるべし」(言葉を言わない木であつても、立派なお方が大切にしてくださる琴となるに違ひないでしよう)

また平安初期、深根輔仁(醍醐天皇の侍医)撰と/or『本草和名』(現存する最古の和漢薬名辞典)卷第14、木の項に「和名岐利乃岐」とある。

その点、古くから文字のあつた中国の紀元前3世紀頃に成立した百科事典『爾雅』(中国最古の辞書)には、槐梧・栄桐木とおり、キリを示すという。さらに種類や栽培法についても、後魏の時代の『齊民要術』(532~549年頃成立)、宋の時代の『桐譜』(1049年)などに詳しい記述が見られる。

●植物学上のキリ

一般的の植物について、その分類が現在の形態を整え、学名で

世界的に統一されたのは、1867年、パリで開催された第1



ケンベルが紹介したキリの図版

回国際植物会議における万国植物命名規約によるとされている。その分類の基本となつたのは、スウェーデンの植物学者リ

ンネ(Carl von Linne, L. と略記される)による『植物の種 (Species Plantarum)』(1753年)の分類表であった。

一方、わが国で植物分類の先鞭をつけたのは、1708(宝永6)年に『大和本草』を著した貝原益軒であるともいわれる。その中に「白桐」について「荏桐は油桐なり、海桐はハリありハウダラと云、梓も楸も皆桐の類也。又犬キリと云ものあり、其木理(木目のこと)朴ノ木の如し。これ白楊なり、是も器に作るべし、賴桐はヒギリ也、花紅なり、ケラノ木あり、実紅なり、色沢が一見類似していることである。

イイギリとなり、科も異なる

が、共通する点は材の木目、色沢が一見類似していることである。

わが国

のキリを初めて欧州

に紹介したのは、1690(元

禄3)年に来日したドイツ人

医師ケンペル(Engelbert

キリはもともと、アジア大陸東部の原産であり、わが国には自生せず有史以前に渡来したというのが、おおかたの植物学者の通説である。現在わが国で植栽されている品種は、二ホンギリ、チヨウセンギリ、ラクダギリ、ウスバギリの4品種と考え

●キリの原産地・分布



倉庫脇のキリの木(福島県三島町)

られる。

これらは、花の内側の紋様、あるいは樹形、樹皮などから識別ができる。このなかで広く見られるのは二ホンギリ、チヨウセンギリ、ラクダギリである。

一方、キリの原産地である中国には、北緯20°の海南島から40°の遼寧省まで分布があり、品種として10種内外に分類されている。

●古代の文献にみる日本のキリ

文献上のわが国における初出は『万葉集』に見られる。聖武天皇の時代(8世紀前半)に成立したとされる卷第5、雜歌の部に、「大伴淡等謹しみて状す。帥大伴卿梧桐の日本琴を中衛大將

藤原卿に贈り給へる」とある。

桐でつくつた和琴とともに贈られた書状には、「梧桐の日本琴一面、対馬の結石山の孫枝なり、此琴夢に娘女に化りて曰



ニホンギリの着花状況(千葉県松戸市)



福島県三島町でのキリ育苗

会津桐の产地の一つである福島県三島町では、2017年4月からキリの実生苗および分根法による育苗を始めた。ここでは写真でその経過を紹介したい。